

ALS（筋萎縮性側索硬化症）という難病女性の希望で  
安楽死させた二名の医師が委託殺人で逮捕されました。

私たちの人生はマラソンの競技に譬えられるようになにがなんでも  
生き続けなければなりません。

特に人間は生物の中で一番ひ弱く、誰かの助けによらねば  
一瞬も生きることもできないのです。その証拠に被創造物の一番最後に  
人間が創造されました。

人間は「考える葦」と呼ばれるように直ぐに折れるひ弱さを  
互いに助けあいながら生きるように創造されました。

特に筋肉が萎縮する病気になられた女性に対して手厚い助けが必要です。

それに反して女性が死にたいからということで、助けをしたというのは  
短絡的な考えです。だれでも死にたいという気持ちはいつもあります。

そうだからといって、殺されたら、怖くて生きることはできません。

私の友人の18歳の孫が今年の3月末、友人とドライブ中にトラックと衝突して乗用車の上部が  
ちぎれてしまい、現場検証の警察官が首が飛んでも不思議でないといわれる

大事故でした。頭蓋骨が脳に食い込み、鼻の骨はめり込み、母親が子であることが

見分けのつかないほどの悲惨な状態でした。たとえ生命は助かっても一生

廃人を覚悟しなければなりません。しかし友人は孫の完全な癒しを毎朝神様にお祈りをしました。

その結果奇跡が起こり、今は職場に復帰して働いています。